明治二十三年二月二十六日印刷
明治二十三年二月二十七日出版

婦人衛生會雜誌

（非賣品）

第十號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生會雜誌

第十號

目次

一月の衛生　坪井次郎君

創傷の話　芳賀榮二郎君

木寺安敦君

乳兒の衛生法　古川榮君

明治廿三年一月四日の演説　宮本仲君

本會錄事

婦人衛生會雜誌第十號

明治廿三年二月廿七日發兌

一月の衛生（明治廿三年一月講演）

坪井次郎君 演説　佃與二郎 筆記

先づ一月に成りまして御芽出度う御座います。此前に庖厨衛生の事を申し上げやうと御約束致しましたが、正月早早穢ない臺所の御話しや何かも如何かと存じて、此度は丁度一月に當りますから、爰に掲げました通り「一月の衛生」の事を摘んで御話し致します。「一月の衛生」と云ふ事も長く申せば大變長う御座いますが、今日は極く手短かく實際に行ひ得べき事丈の御話しを致します。

一月は年の始めて、必ず一週間とか或は十日とか、人の業を休む時で御座います。如何なる人でも仕事を休む。（學校を始め諸官省凡て御休みです）此の御休みは人が身躰の疲れを補う時で有りまして、隨分人と云ふ者は働く替りには休息もなければならない。一年の中休息が多く有つて一週間に一度は日曜の御休みがある、其外八月の土用休みが六十日もあり大祭日臨時の休みもありまして、隨分人間の御休みも多いのです。併し又一日ノベツに仕事も出來ないから一日の中でも少し宛休む時間がある、御存じの通り夜になりますと八時間も御寢りに成りませう、晝間も御飯を食るとか云ふ時は皆仕事を休むそして段々世の中が開化して來れば人間の用が多くなつて參りますから休む事も多く休まなければなりません、何故なれば餘り人が身躰を使つて仕事を多く仕ますと必然身躰に障ります。夫れ故何うしても御休を仕なければならない其の休の中に種々今も述べました通り休みの仕方がありますが一月の御休などが特に大事であらうと思ひます。

扨て其の一月の休みと申すのは一年中歳の暮まで人

が非常に骨を折つて其疲勞を休めるのが元日から捨松までとか十日迄とか極めて休むのが當然で、其七日十日の間は平日の事を忘れて能く御遊びにならなければならない、其遊ぶ時に於て却て種々病の起る事が有つて、遊ぶ時で有りながら身躰を惡くすると云ふ事が種々御坐います。何故に折角の御休みの間に却て病氣になつたりするのは如何なる譯であるかと云ふに一月の遊び方が惡いです。食物や其外衛生上の道理に逆らつた事をするから往けません、於正月の御遊びも氣を附けませんと身躰を害します。今年は最う濟んだとしても來年からは氣を附けて此の御休の間は衛生に適つた事をなし、可成害の無い遊び方を致さなければならんと存じます。

左様に申しても決して御婦人方計りでは無い、凡て男子に在つても皆正月の遊びの仕方は一同に守らなければならない事と思ひます。

第一に正月の食物。正月は必ず雜煮を祝つてオカチンを食る此のオカチンを食るのは何う云ふ者であるかと云ふに、餅はそんなに消化の惡い者でも無いから通常の御飯と同じく食るのは宜しい。併し通常の御飯よりはオカチンの方か煮ても幾らか消化が惡るい又燒いても消化が惡い。故に餘り餘計に食ると胸にモタれ即ち停滯して腹を惡るくする樣になる、夫れ故に御雜煮を祝ふのは宜しう御座いますが餘り餘計に食べない樣に氣を附けなければ成ません。

其外の事は重に酒で御座いますが、正月は御屠蘇を祝ふ人樣が來る度に御屠蘇を出します、此酒の中には藥が入れて有つて腹の邪氣を拂ふから結構のもので有りますが、其屠蘇と云ふは名目計りで實際は通常の日本酒其外種々の酒を飲み過ぎて其の爲に腹工合を惡くして、種々の害を起すやうになります重に腹工合を惡くするのは餅の食べ過ぎ酒の飲み過ぎで

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

あります。私は實地開業は仕ないから正月病人は何の位あるか知らないが元大學の病院で診察の稽古をした時分に、今考て見ると何うしても正月は胃病の人が多くありました。腹が痛いとか腹が下るとか腹加減が惡いとか云ふ病人が澤山あつた樣に思ひます。是は御休がある爲に、何にか口を動かして居なければ物寂しい樣な所から却つて餘計に食べ過ぎ飲み過ぎて腹工合を惡るくし、醫者の手は掛る樣にあります。故に食べ物飲み物の事は正月は餘程氣を附けなければならない、夫れ故に餘り人に進め過ぎたり自分も食べ過ぎてはなりません。

次は正月の遊びの事でありますが、正月は遊び時で平日遊ばない人でも老人でも子供でも又女でも遊ぶのですが、日本の於正月の遊び事は極つて居る、子供なれば羽をつくとか鞠とか男子は凧とかそんな事をして重に遊ぶので、是は家の戶外の遊びたが家の中の遊びは何とか云ふと重もに骨牌の類を持ち遊ぶ、百人一首とか其外骨牌の種類も澤山有りませうが、正月の遊びは先づ骨牌に極つて居る樣な者です。此遊び方は何うであるかと云ふに鳥渡私の考へて見ると戶外に出て遊ぶ方は大變に宜からうと思はれる。羽をつくとか凧を揚げるとか云ふ遊びは大變に運動になつて宜しい遊び勿論子供の遊びに取つて大變宜しい。なんとなれば戶外なれば宜しい空氣を吸ふ而已ならず身體を種々に運動させるから、運動をしろと云ふても仕ない人が自然に運動が出來る、面白くつて運動が出來ると云ふ樣になるから大變に宜しい、併し風の吹く時とか雪の降る寒い空に戶外に出て遊ぶのも餘り宜しう御座いますまいが、穩かの天氣の時に戶外え出て遊ぶのは至極宜しう御座います。併しながら家の中の遊び方は私は餘り感服しないと思ふ、此の寒いのに晩くまで閉込めた部屋の中に人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

も餘計に這入つて、狹い部屋で蠟燭を點け洋燈を燈し火鉢を擁きますから、炭酸は澤山に溜つて餘程空氣が惡るくなつて居る。然るに骨牌を取つて居る人は夢中になつて夜の十二時過ぎ二時頃までも夜明し迄もする、そして明くる日になると必然頭痛がして虛弱の人は床を敷いて寢ると云ふ樣になります。左すれば慰みの爲にして却つて反對なる惡しき結果を起すので御座います。夫れ故に家の中で遊ぶならば氣を附けて成る可く空氣を惡く仕ない樣にしなければならない。然るに骨牌は疊の上でする者ですから、何れもこゞんで仕舞うこゞむのは惡いのです。自然に登せて來る其爲に目の方に血が溜つて目が惡るくなる原因となります。近眼杯も多くこゞんで居る所から起ることゞんでするよりは大きな臺でも置いて机の上か何かで遣る方が宜しいと思ふ。

其外燈火も動かない燈光が宜しい、洋燈とか電氣とか云ふ樣に光りの定まつて居る者でなくては往けない、彼の蠟燭の如きはチラ就て大變に目の毒になります。目を餘計に疲らせる。洋燈を上からつるして可成明るい場所で遊び事をするが宜しい、燈光か動くのは目許りでない身體を押し呼吸も充分でないから、頭を害する事が非常で御座います。

併し一躰、正月と云ふ者は、昔から衛生の道には自然と適つた事も致して居る樣に思ひます。と云ふのは正月は祝ひ祝ひと申しまして、一年中是から壯健で居て少しでも長生をする樣に、と云ふ事を考へて鳥渡した御道具の黑でも、鶴龜と云ふ樣な摸樣が就て居る、鶴は千年龜は萬年ゴマメとか海老とか又煮豆とか云ふ者も、皆少しづゝ意味の有る事です。數の子の樣な者でも今では衛生家は能くないと申しますが、昔しは成程養ひの者で有つたのです、正月は可成氣を附けて不衛生の遊び事をせず健康に暮し達

者に暮し長生きを心掛けて居る者に相違ない。正月の御話とは違ふが十二月には厄拂ひと言ふて、獅子や何かゞ來る事は丈夫に世の中を暮す樣に、長生をする樣にと、云ふ事を人が祈るのであると思はれる。併し之はそう云ふ考へで有つたので御座いませうが、今日となれば知らず識らず正月に不衛生をなして、正月は躰を休め躰を丈夫にする時であるのに、却て病氣の元を拵へる樣になるから、可成皆樣は氣を附けて一年中無病で、暮す樣な事を心掛けられねばなりません。若しも當年は丈夫に居り度いと云ふならば、充分正月を休んで躰を丈夫にし、是迄の疲を拂つて其上何なりとも仕事を働かれるが宜しいと思ひます。今日は時間も有りませんし、又口の利き樣も早過ぎて御解りにならなかつたかも知れませんが、次には加藤さんや宮本さんが、面白ひ御話しをなされるで御座いませうから、私は是で御免を蒙ります。

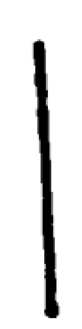
○創傷之話　（明治廿二年九月口演）

芳賀榮二郎君口述　佃　與二郎筆記

私は、外科を專門として居る者だから、皆樣の衛生に關した事は、甚だ不熟練でありますゆへ、矢張り私の專門の創傷の話しに就て述べたいと存じます。夫れで創傷と云ふのは隨分種類の有るもので又吾々は始終創傷を受けます。夫れ故創傷と云ふ者は何云ふ者であるか、創傷は何云ふ風に愈る者であるか、又何云ふ樣な工合に取扱つたなれば宜敷いかと云ふ事の、御話しを仕樣と思ひます。

此の創傷と申すのは、皮膚の切れて、口を開らひて、血の出る者を申すもので通例痛みがある、其創傷は種々の原因から起るものだから、創傷の形ちも亦色々ある、大なる者小なる者、淺き者深き者種々有ります。

單に切つた創傷とか、又は刺した創傷とか、或は皮が裂けた創傷とか云ふ區別もあります。又極めて輕き創傷なれば、直きに皮がクッつき愈つて仕舞う。一度皮膚が口を開ひても亦クッついて愈ります。其時ハ何時でも通例ハ痕を存して、創傷が出來た痕が存る。通常の創傷なれば、極く小さい痕が存りますが、此の創傷と云ふ者ハ何時も旨く愈れば宜しいが、さう愈らないで、ドゥかするど危險に變ずることがある。通例の樣に往けバ小さな痕が存るのみで、別に膿む事もない、併し若し大なる創傷であるか、小なる創傷でも手當が悪るいと膿みます。。。。創傷の膿むと云ふとは皆樣も御承知の通り、吾々如き外科を專門と致して居る者には尤も必要のことで、創傷の膿むのは大事のことです。今鳥渡皮が切れても餘り口を大きく開かないと通例は膿まないで愈る、併し其創傷が口を大きく開くと膿みます。暫らく膿を持つて夫から愈ります。一度膿を持た創傷は愈ても大層見苦しき痕を遺す者で通例の創傷なれば小さい



これだけの痕だか、若しこれが膿めば

コウ云ふ樣に痕が存る、故に醫者は勿論、何人でもなる可く膿まない樣に注意仕なければならない。膿めば跡に大きな瘢痕が遺るばかりでなく此の膿の毒に中ると危險のことが生ずるもので、生命に關する事があります、扨て創傷がドゥ云ふ理由で膿かと云へば、是れは創口に毒が混入つて行くからです。皆さんも御承知でありませう、毒が創口に混入りて、創傷を腐敗らせるのです。其毒と云ふ者はドゥ云ふ者で何處に在るかと云ふに、何處にでもある。先づ空氣即ち吾々が生活に大切なる空氣の中に毒が澤山有る、其他空氣の中に存して居る所の物躰には、必ず種々なる毒が附着ひて居るのですから、吾々は殆ど毒の中に生活して居る樣な者です。既に本會雜誌(第八號

十九丁）にも載つて居るが坪井君の御話せられたる塵芥の說の中にも、一種の黴菌が有つて其黴菌が壁や障子、其他食物の中抔にも生て居る、其黴菌の中には傳染病の原因になる者が有るとのとが載つて居りますが、私の今日申したる創傷の膿と云ふのは矢張此黴菌の仕業です。黴菌の中には害にならない者も有りますけれ共、害を爲す者が空氣の中に在る、其黴菌が矢張り飲食物の中に混入つて、飲食物の中に成長すると同じく吾々の躰中に混入つて生活するのです。所で有毒の黴菌の種類でも、吾々の皮膚に創傷のない時は、皮膚に附着て居つても害を爲さない、吾々の躰には垢が有るその垢の中にも黴菌混じて居る創傷がなければ格別害をするとが出來ないが、若し創傷が出來る、竹とか木の枝とつて突附た爲めに創傷が出來れば、直ぐに其の疵口から毒が混入つて來て、ソして創傷を腐敗らせる。以上述を申せしは此の黴菌の一種で空氣中に澤山在ります。

此くの如く空氣の中には種々の黴菌が有る、其の外家財道具飲食物等の上にも皆な附着て居りますがいづれも皆毒であります。故に吾々の躰中に若し創傷が出來たなれば、成る可く注意して、穢なひ物に觸れなひ樣にし、其口を奇麗に清潔にしなければならん。其口を清潔にしないと毒が混入るから何んでも創傷は清潔にして膿まない樣に注意なければならん。夫でありますから、近來醫者の方の外科抔では最も茲に注意して、創傷が有ば大事になし清潔になし、黴菌の種類が創傷の中に混入らない樣にするのです。彼の傳染病抔の原因になる者は、矢張り黴菌である、斯ふ云ふ者は何處から混入るかと云ふに、多くは空氣を呼吸する時に口とか鼻とかから躰中に混入るとが出來るけれ共私の御話しいたす領分で申すと皮膚から混入るのです、皮膚に創傷が有るとドコからで

も混入ることが出來るのです。之を拒ぐには清潔にさへすれば混入らない、又若し黴菌の種類が混入つても、其の黴菌を殺してさへ仕舞へば、決して害にならないと云ふ事が近頃解つた。故に醫者の方では、創傷が有れば其創傷を洗らつて、消毒して毒となる所の黴菌を殺します。之は醫者の方の消毒法でありますが、其消毒と云ふとが、必ずしも藥を用ひて消毒しないでも宜しい、何んでも創傷が有つたら之れを清潔にするのが一つの消毒法である、故に若し創傷が有つたなら、醫者に診て貰らふまでも放ては置かれない、充分消毒を與へて置けば創痕にはならない、何んでも創傷が出來たら汚穢い物の混入らない樣に注意して、只通常の水で洗らうのが宜しい。通常の飲水で宜しいから是れで洗らつてさへ置けば別に害はない。併しながら一遍、水を煮て冷した水で洗らへば最も宜いのです。併し醫者の方では、また水より宜しい藥を知つて居ますから其藥で洗らいますが然うすれば決して膿む樣な事はなく、直に愈ります。愈つて極めて小さい痕を存すだけに止ります。其藥の中で一番宜いのが石炭酸でありまして、今は日本でも使ひますから皆さんもご存じでありませうが、其外昇汞と云ふ者を水に溶して、昇汞水と云ふ者を使ひますが、石炭酸の如きは普通に使ひますから、是非一軒の家には蓄へて置かなければならない、若し創傷が出來れば直に之れを以つて洗らうと云ふ樣に常に貯蓄して置きたい者です

夫れで醫學の方では消毒法をば殊に注意して、創傷を手術る時には最も注意する、決して毒にならない樣に務める、夫れゆへ今創傷を手術ると云ふ樣な時は手を洗つて清潔にして創傷に觸らなければならん、何となれば手には汚穢ものが附着て居ります、隨分奇麗なる御婦人の御手にても附いて居る、故に先づ

一遍は石鹼で洗つて、然して人の創傷を手術らなければならない。殊に吾々の爪の中には汚穢い物が附て居りますから、隨分此爪を奇麗にする事は必要であります。一家內の者が創傷を受ける、之れを扱かふに汚穢い手で手術ると云ふのは頗る害になるので、手は奇麗な積りでも爪の中に汚穢い者が有ると夫れから毒が混入つて來る、故に醫者なれば創傷を手術るには手を石炭酸で洗ひ奇麗にし爪を短く切つて、よく垢を刷毛で洗つて創傷を療治する事にするのだか、此れは醫者計りではない、世間の人も矢張同樣にて其通りをしなければならんのです、又創傷が醫者の診る迄空氣に曝らしてあるから石炭酸の如き者て毒を消す爲めに、創傷を洗ふのです創傷の中には既に混入つた毒もある者と認めて洗ふのです。換言すれば、黴菌がドン〳〵創傷口に混入て膿まさるから、若し膿むと隨分恐ろしき害を起す事が有りますゆへ、之れを洗ひ取るのです。

創傷の中でも、最も其小なるがために知らずに居るとがある、さうすると何時か其中に毒が混入つて困難するとが起り升。例之ば瘭疽と云ふ指の病の如き、之れは指が腫れて大層痛みを起して、夜中眠られない者です夫の上ドン〳〵腐敗つて指の先が落ちて仕舞う、世間には強き瘭疽を病んだ爲めに指の先きが圓くなつて居る者が往々ある、之れは指病みを惡るくコヂらしたから腐つて落ちたのです。此の病は、御婦人が縫物を成さる時に、針の尖で指に疵を附ける、然るに針で突附た孔から最早毒が混入つて、遂にはかゝる病となるので、縫物を扱ふ御方は別して注意仕ないといけません。何んでも水で洗ふとか、大層な創傷でなく共、血は出なくても夫れ丈けの用心をしなければなりません。

○○○又乳房炎と云ふて乳の病が起る、夫れは乳房の所え

創傷が出來、一度創傷が出來ると毒が混入つてゆく、夫れは重に小兒に乳を吸はさる時に容易く創傷が出來る、其時は知らないで居ても、小兒の齒で嚙むだ爲め或は皮が剝けたり抔する、夫れを注意仕ないと忽に毒が混入つてゆく、黴菌の樣な者か皮膚の中に混入り夫れから乳房を腫らすのです。誠に厭な者で、ズン〳〵腫て痛みが增し堪へ難い者です、此れ抔も若し創傷があつたとか、嚙まれたとか、乳の周圍の皮が剝けたとかした時は、水で洗つて其上淡い石炭酸で洗うが宜しい。左すれば後で痛みを起す樣などは御座りません。

其外乳房に種々の發疹が出來る、カブレのやうな腫物が出來る、是れは皮が破れた所で其破れた孔から毒が混入るから、矢張りさう云ふ物の出きた時は、早く醫者の治療を請け充分注意して豫防仕なければならない。若し其れを放てゝ置けば乳房漸々腫み、終には醫者の手に掛けて乳房を切る樣の事に相成り升。さうすれば小兒に乳を飮ませるのに害を來す、故に一層乳抔は注意して、皮膚に創傷の附かない樣に仕なければならない。

醫者の手に渡れば、醫者には創傷を愈す法がある、其他膿まない樣にするとも出來る、近來に至つては石炭酸又は昇汞水を、綿或は布に浸して其創傷を蓋ふて置きます、さうすれば例の黴が混入らない、混入つても死んで仕舞う、昔しは創傷が有れば不潔の者を貼てたり或は汚穢た手拭で縛るとか、又袂の塵芥を附着て置ひたり、膏藥を附けたりして置きましたが膏藥と云ふ者は、切り創には却て惡るい塵芥の附いた手拭の樣な者で卷くのも甚だ惡るい。其代り西洋あたりでは、綿に藥を附けた物を藥種屋で賣つて居るが、未だ日本では醫者の所でなくては無い、其綿で創傷を包んで仕舞う、さうすると外の空氣が

之に觸れることが出來ないから毒も混入らない、混入つても黴菌は死んで仕舞ふ。夫れで醫者の方では（品物を示す）通常斯う云ふ布で或は綿で縛つて置くから、膿む疑念はない、醫者の方では創傷を膿ませないのが自慢で、昔しは膿まさなければならない樣に思つて居たが、いまでは膿ませると醫者の耻ちで有ると云ふことになつた、夫れ故に通俗の人でも矢張り膿まさない樣に仕なければならない。漢方醫者抔は吸出し膏藥抔を拵へて、毒を吸ひ出させると云ふが、之れは宜しい者ではない、膿が出て夫れを吸て仕舞ふと云ふのは、どう云ふ理屈かと云ふに、膿まない處にも毒を貼付けて膿ませるのです、膿を吸出すのではなくして、膿を拵るのである、そんなに無理に創口大きくして膿まさるには及びません。夫れ故に吸ひ出し膏藥は無益です、其代り、只今申し上げました綿か布を使ひますれば、膏藥抔よりは餘程功能があるから、決して創傷を膿ませる樣なことは仕ない、今日品物を持つて來ましたから御覧を願ひます。（品物を示す昇汞ガーゼ及脱脂昇汞綿）其外綿抔を附着ると、之れを取る時に痛みがあるから、此樣な紙を疵口に附けて置きます。（標本を示す）さすれば後で綿を取る時に痛がない、故に創傷があれば汚穢い物に近附ぬ樣、膿ませない樣に御心掛けなさるが專一で御座います。只夫れ丈けの事を始終御忘却なさらん樣に願ひます。

以上私が創傷の話に就て申すと云ふのは單に疵なるものは膿み易き者である其膿むと云ふのは即ち毒の浸入るので、毒は不潔な者に最も多く就着ておるのだから其毒の創口に入らぬ樣にする、若し混入つたなれば早く藥で洗つて毒を殺して仕舞はなければならんと云ふことであります

○明治廿三年一月（例會）木寺安敦君口述

佃與次郎筆記

今日は諸先生が未だ御出が無から、何か私に話をと云ふ事を幹事の方々から御話しが御座いました。私も年來此の會に失禮致して居りますが、誠に用事が多く御座いまして、會の度毎には出られません位の事で御座いますから、今日稀に出ましても、何にも申し上げる話しの種子が御座いません。併しながら先生方が御出にならず、皆さん。御集りになつた、所で幹事方も御心配に成つて私の樣な者に落し話しか、乳母の事の話しでも致す樣にと云ふ事で御座いますから、聊か詰らん事ながら、御話し仕樣と思ひます。

ソコで實は御婦人方、令孃方に向つて、何か御爲になる樣な御話しを仕樣と云ふ考で御座いまするが、差し向き急に宜い御話しの種子が御座いませんから幾分か此の會には縁遠い樣では御座いますが。此頃新聞紙上に見えまする處の、廢娼論とか、存娼論とか申しまして、大分喧かましく申しまする、アノ娼妓の事に就て、廢するが宜しいとか、廢さんが宜しいとか、云ふ樣な話しが、世の中に起つて居りますが。是れは皆さんには誠に耳遠い處の御話しで御座いまするが、此の娼妓と雖とも、矢張り人間社會に居る處の一つの婦人で御座います。其の婦人に或は其業を廢するが宜しいとか、又或は廢さんが宜しいとか、申しますれば、矢張り日本婦人の優待不優待に關して、其波及する處の元は、幾分皆さんにも關して居りまする故、皆さんも此の事に就ては御考があらうと思ひます。

然るに此の問題は甚だ大問題で御座いまして、此の度小島官吾と云ふ人が、東京府會議場に於て此の議を述べまして、夫から府下の諸新聞に於て大分此の論が喧ましくなりました。或は權利とか、或は道德と

か云ふ事に就ては、此の會には先づ關係が薄いので有ります。併し梅毒の一方に於ては、幾分か此の會の御方にも御注意なさらなければならん事であります。夫れで梅毒の傳染と云ふとは、實に恐る可き者にして、既に日本人が外國人と對しまして、一體體力の弱いと云ふ者は、何故であるかと云へば、横濱に居ましたセメンズ氏杯の説に依れば、日本人は盡く梅毒の分子が有ると云ふ事であります。併し高貴の御婦人方にはソンな毒もあるまいが、中以下の者には多いのだらうと思ひます。決して其父親樣にも、母親樣にも、祖母樣にも、祖父樣にも毒があると云ふのではない、乍併二十代三十代の其前に、齎た處の妾に在つたか、乳母に在つたか、(ソコイラの處は知らないが、)何しろ此の梅毒の感染を引受て居たのに相違ない。夫れ故に日本人は體が弱いと云ふ事であります。

又右の事から考へて見れば、實に梅毒の感染傳播と云ふ者は、虎列刺病よりも怖い者であります。虎列刺病は此の上も無き恐ろしき者では有りますが、一時消滅した後で能く消毒さえすれば、其後の感染傳播は免かるゝ事が出來ますが。梅毒と云ふ者は一度感染すれば其の體のみで無く、其子々孫々迄も傳はる者であります。

右の如く黴毒は子々孫々に傳りますから、若し此の毒に感すれば、それからそれと手渡しする樣に渡つて、一人の體から大勢に振り蒔く處の數は幾千で御坐いませう、私は甚だ之を心配致します。而して虎列刺の傳染は一時にして消滅しますが、黴毒の感染に於ては、一度之を受ければ、之を救ひ得る事が出來ません。

右の如くで御坐いますから、此の世の中に何が一番怖いかと云へば、實に黴毒程衛生上に怖い者は御坐

いません。其點から考て見れば、娼妓も中々容易に廢する事が出來ますまいと思ひ升。併し新聞紙上にて云ふ如く、夫れを廢するのも宜しい、實に私も廢したい。何故なれば少壯の婦人を立派に飾せて、店に駢列て「是れは幾干」て賣物に出して置くのは、實に恥かしい事であります。如何にも人間を飾て置て、見れば幾干と云ふて賣物に出すと云ふは、實に道德地に墜ちて恥づかしい事であるから、此の事は止めたいと云ふ念慮は私も充分あります。併し爰に又止められない理由が有る、夫れは何故かと云へば、既に明治十六年に品川に於て、梅毒檢査を仕た時に素人に梅毒が多く有つて、却て娼妓の方には少なかつた事が有ります。一體品川の娼妓に梅毒の有つた者は先づ百中の五とか六とかの數でありましたが、新奇に素人から買ひ入れた女に、梅毒の多い事を發見した事がある。して見れば右の如く娼妓を廢して地に墜ちた道德を挽回するは賛成てあるが夫れを買ふ者の方から止せば宜しいが、然うでないと素人に梅毒を持つて居る者が大層に在るから、處で英國の樣に密賣淫計りで充分濟むと云ふ樣になつては、英國は宜しからうが、決して日本では宜しく無い、何故宜しくないかと云へば、橫濱に眞金町と云ふ遊廓があるが、其處に登樓する者の比例を取つても、英吉利人は少ないが、隨分日本人は多く參ります。然うして見れば外國人は衛生上にも道德上にも、早くから注意して居るのです。處が未だ其處迄行はれない日本人であれば、此の娼妓を廢せば、必ず夫れ丈けの事が、他に破裂するだらうと思ひます。(隨分世俗に能く致しますが) 阿波島の御灸をスヱて謗を取ると云ふ事ですが、處が灸點を仕て居た人が俄に是を止めれば、其一方から出て居た處の毒が、惣身に充滿して必ず害を爲すで御坐いませう。

夫れと全じ事て、今まで在つた貸坐敷を廢せば、其の毒が世間一般に吸出して困る樣になりませう。サア斯うなつた時には、進歩した國ては宜しいが、未だ道德衛生共充分に上達致しません此の日本國に於ては、今日諸新聞に云ふ如く、廢娼をしては(私は他の事は知らず、梅毒感染の一事に於ては)大變な困難を社會に吹き出すだらうと思ひます。故に此の事は誠に大問題て御坐いまして、是れに就ては世間の立派な人の御論も御坐いますが、私の考では若し之を潰したならば、梅毒が感染して日本人が弱い人間になると云ふ事を感じましたから、本の前坐の御役に一言申して置きます。何卒皆樣の御考て、廢した方が宜しからうか、存した方が宜しからうかと云ふ事は皆樣の御判斷に任せまするが私の考では此の一點に於て漸時に廢するのは宜しいが今日無理に廢しては、其結果が梅毒の勢を助けて世間に蔓延しはせまいかと心得られ升今日此の衛生會の如き者を立てられまして、人間の躰を健康に仕たい、持病の樣な者は無い樣にと云ふ主意に反對で有る事を愛るからして、一言申上げたので有りますが、此の樣な詰らん御話しを、此の御席に於て致すのは、甚だ失敬で御坐いますが、局り此の世の中の人に惡い病を感じさせまいと云ふ、此の一點から申し上げたので御坐いますから、宜敷御推察を希ひ上げます。

○乳兒の衛生に就きて　(明治廿二年十月)

華族女學校に於て　醫學士　古川榮君講演

偖不肖なる僕には如何なる神の引合はせにや今日只今本校に於て大日本婦人衛生會の優渥なる會員貴婦人諸姉に面接するの榮を賜り恐悦至極に存上ます來會諸姉は御存しあるや否や僕は曾て帝國大學に在て醫學を專修したる者なれと醫と云ふ字か意衣巽等

と其音を同ふすると一般殊に最終の同音なりとの評を博し居れは婦人衛生會抔に臨みて演説を爲すは嗚呼かまし取分け「乳兒の衛生に就きて」との演題は已に一々學人か貴女の友第四十號及四十一號(明治二十一年十一月五日及十五日)に於て「哺乳兒養育問答」と題して論辨したるヿを今更復習するやの疑を蒙るの嫌あり加之ならす黄嘴無子乃ち未た一回の實地經驗もなきに乳兒のヿを提出するは全く机上の考案若くは疊の上の水練にして恐くは泰西成典の受賣り否な受斷しならんとの評を免かれさるへし然れとも退きて世間の大勢を案するに上は政事財政を始めとし下は風俗生計に至るまて明治の昭代に輸入し來れる歐米の新事物を襲用するの熱力幾許あるや我物は不良不味にして彼物は無上飛切との忘信社會に横行するヿ幾多なるや、氷炭は相容れす黒白は自ら別あるものを舍短取長の辨識なきは幾許の不幸そや小兒を養育するも尚且然り子を持つ以上は人の母たるらしさ即ち資格を忘却するヿ勿れ少なくも小學の科程を全ふすへきは開明國民の義務なり然るに小兒精神發育の度を知らすして濫に六ヶ敷事を教え時間を長くして飽かしむるは抑も何の意そや小兒發育の如何は本篇の深く干渉する所にあらす是より進て愈々乳兒衛生の一斑を辨するに順序として先つ初生兒(嬰兒)と大人の區別を明にせさるへからす初生兒とハ今娩れ落ちたる愛兒の稱にして分娩后幾時間迄を初生兒と唱ふるやの問題ハ裁判醫學上に關係あり即ち産婦狂して兒を殺し或は懶し(貧に迫るもあるへし)とて殺兒犯を試るヿあり各國の法律を案するに今日にては分娩后二十四時間迄を初生兒と呼ふもの丶如し之を罰するに輕重二説あり其輕なる方は「初生兒は未た價少なし故に大人を殺したるよりも輕く罰すへしと」其重き方は「初生兒は無心なり之を殺すに抗抵す

るとなきか故に容易なり以て大人を殺すよりも重くすべし」云々是れ固より醫學上の眼を以て見解を下したるものにして刑法の精神は「初生兒は四隣に露はるゝと少なく且つ容易に之を殺すとを得れは宜しく重きに依て罰すべしとのとあらん本邦刑法も重きを以て論す、身長、躰重等に就きて嬰兒は大人に比すれは小なると勿論なり本邦の初生兒は大凡一尺五寸許の身長と八百匁許の躰重を有す即ち大人の身長約四分の一、躰重十八分の一なるへし娩れて直く驚散に叫ぶ(涙を出して泣くにあらす)寒冷なる空氣か皮膚を刺戟して呼吸を促すに因るのみ產湯にて乾酪様皮漆(俗にひゑと云ふ)を洗ひ去れは睡眠に就くを常とす、皮膚の面積を躰重に比すれは割合に大なるものなれは躰温を失ふとも著るし故に勉めて温柔なる襁褓の裡に育はさるへからす乳兒の生活は吸乳、睡眠及泣叫の三業にして其消化器の構造も大人と異

あらさるへからす即ち學士ベチック氏か歐洲の小兒

に就きて研究したる成績を觀るに躰重〇、一基(我二十六匁六分餘)に付小兒は五千乃至九千立方仙迷(二舛八合乃至五升)の消化管内容を有する割合にして大人は同量に付三千七百乃至四千四百立方仙迷(二舛乃至二升五合)に過きす又食物(乳汁)消化の中央局たる胃は上

圖に示すか如く小兒の胃は上より下に向て殆と直走して未た底を存せす故に嘔吐を發し易し但し吐乳の際、乳汁凝結して細片を爲すときは呑過且動搖に依て吐したるものあれは氣に掛るに足らすと雖とも片塊なきときは胃病の徴なれは必す醫師に診察を乞ふへ

し胃の内容は誕降第一日には四十立方仙迷(四勺強)二週日には百六十立方仙迷(一合弱)二年には七百四十立方仙迷(四合強)(大人は一千五百立方仙迷(八合三勺弱))なれは授乳は二十四時間中毎一時四分の三乃至二時ならさるへからす乳兒は幾許の食料即ち乳汁を要するやの問題は驗者に由て各其成績を異にすると左の如し但し其數は瓦(我二分六厘六毛餘)に示す

生日	ウツフエルマン氏	ベデツケ氏	ハーデル氏	カメレル氏	アールフエルド氏
第一日	五〇	四四	二〇	一〇	—
第五日	三二五	三五二	—	二八八	—
第十日	四三五	—	—	四九五	—
第二週	—	—	五〇〇	—	—
第四週	—	—	—	五三四	五七六
第十週	—	—	八〇〇	—	—

之を平均するに乳兒躰重の大凡七分の一にして躰重一貫百貳拾匁なれは乳汁百六十匁あり但し第二週より之に超過し第六月より之に到達せさるものとす尿の量は攝取したる食料(乳汁)百に付六十五乃至七十なり尿は百分に付三分、柔軟にして黄色、酸性の臭氣を放つ成分は水八十乃至八十五、脂肪十乃至二十、鹽類十分を百分中に含む殊に石灰多し故に鶏卵の黄は小兒に與へ白は大人に給すへし、尿惡臭を帯るときは腸胃健康ならさると恰も吐乳の凝塊を欠くと一般なれは必す醫師に診察を仰くへし又牛乳は犢牛の最良食料たると一般、人乳は小兒に向て無二の良食たると其消化吸收利用高を大人と比較して知るへし即ち小兒は乳汁百分を九十二乃至九十三分まて吸收すると雖とも大人の利用は八十九乃至九十分にして三分の差あり然るを大人の患者殊に婦人にして乳汁の臭氣を嫌ふものに強て牛乳を飲用せしむるは二重

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の心得違なり乃ち第一元來牛乳は牛の食料にして第二乳汁は發育躰(小兒)の食料たるとを記臆せさるへからす又產母の乳汁は愛兒の要する適に其成分を變するものにして分娩后始めて分泌したる乳汁は荒乳と稱し多量の固形分を含むか故に胎屎を便するの下泄效あり然るを之を愛兒に授けすして徒に海人草を飲まするは心得違の甚たしきものと云ふべし第一日に分泌する即ち荒乳の固形分は百分中十六、九二なるか第四日に至れは減して十二、〇二とあるものあり又乳汁は蛋白膜にて包みたる脂肪球をアルブミン、カセイン乳糖及塩類より成る液躰に分布したる乳劑にして本邦の產婦は古來の習慣を襲用して蛋白質及脂肪に富む膩膿の食物は嫌にして無味淡泊の米、飴等を好むか故に本邦婦人の乳汁は之を外國婦人の乳汁に比すれは含窒物及脂肪に乏しくして乳糖に富むと左の小表に示すか如し但し其數は百分比例にして東京衛生試驗所の試驗に係るものなり

種別	比重	水分	含窒物	脂肪	乳糖	灰分
二十歳初產分娩后八日	一、〇三八五	八八、一五	一、五一	三、五三	七、六一	〇、三一
同　十五日	一、〇三七二	八八、〇六	一、三三	三、四五	八、〇三	〇、三一
廿一歳初產分娩后八十日	一、〇二九〇	八七、九六	一、一〇	三、九五	七、八一	〇、一八
廿四歳初產分娩后百日	一、〇三三〇	八六、〇六	二、〇六	三、七八	七、九五	〇、一五
十九年六ヶ月分娩后百十八日	一、〇三〇〇	八七、五二	一、三三	三、六八	七、五一	〇、〇八
廿一年十一ヶ月分娩后百五十日	一、〇三〇〇	八六、五〇	一、一八	四、〇九	七、九五	〇、〇八
外國婦人乳比較 二百餘補不均數	一、〇三〇〇	八九、二〇	二、三五	三、四〇	四、八五	〇、二〇

乳汁は脂肪の乳劑なれとも之を動物試驗に徵するに蛋白質に富む食料は必す乳汁の脂肪を增すものにして俗間に鰻は乳の藥と唱ふるも亦以あるなり

只今分娩したる乳兒を如何に處置するやの問題は來會諸姉の中には已に御實驗もありしとならん產湯を要するは皮漆(ひゑ)を洗去る目的にして清潔法の一端なりそれより嬰兒は眠に就くを常とす醒れは直に

荒乳を與ふへし然るときは胎屎を便すること速かなり、尤も殊に初産には分娩后二十四時間或は其余毫も乳汁を分泌せさることあり愛兒に吸乳運動を試ましむれは反射作用にて終に分泌すること多しこれにても分泌せされは貰乳を吸はせ或は乳母あれは之を雇ひ決してまくり或は之に類する品を舐らすること勿れ人乳にも乏しきときは不得已牛乳を呑ましむへし其法牛乳、一分に水三分を加へ此混合液百分に白糖四乃至五分を投して第一日に與ふへし但し初め二三日は吸乳器より吸上る力に乏しけれは矢張りまくりを舐らしむる樣の方法に倣ふへし授乳の回數は第一週には晝夜毎三時乃至三時半一回を要す此際乳房を以て愛兒を窒息死せしむること勿れ殊に若き婦人に多し第一月には毎二時半一回初めは晝夜、后には晝はかりとなすへし吸乳時間は十五乃至二十分時にして后に至れは吸力大なるに從て短くなり一日七回にて充分となれハ午后十一時より午前五時に至る迄ハ一切授乳を禁して產婦の安眠を計るへし輓近の方案なりとて皮漆(ひゑ)を產湯にて洗ひ取り胎屎を荒乳にて下せハ躰重二百二十乃至三百瓦(五十八匁五分乃至八十匁)を減するか故に此消失を益はんか爲め彼可成的遲く臍帶を結紮して多血性と爲すの不利益なること一般數日、數週前に分娩したる婦人の乳汁を呑ましむることを勉る者あり一應尤の樣なれとも胃の內容は小に過きて飽滿には耐えす却て害あるものなり吸、叫、睡三職の外無心なる愛兒には充分の注意を要すへきは勿論產母の攝生も授乳中は一層肝要なり亞爾箇保爾は乳に移行するか故に酒を飲むときは小兒に害なり硫酸苦土、硫酸曹達、沃度加僧謨、鉄、鉛、亞鉛塩、撒里失爾酸(酒中に含み居る防腐藥)も再ひ乳中に顯出するものなれは可成的避くへし。

内務省中央衛生會にては男女結婚年齢を女十五歳男十七歳と定められたり

離乳の問題に就きては先以て齒は如何に發生するやを研究せざるへからず成人の齒は一側に門齒二枚、切齒一枚、小臼齒二枚、大臼齒三枚都合三十二枚なり小兒の第一に齒を生ずるは下顎にして上顎は一二週遲し其順序左の如し。

內門齒二本	六乃至八月
外門齒二本	七乃至九月
第一小臼齒	十二乃至十四月
切齒	十五乃至二十月
第二小臼齒	二十乃至三十月
其他	畧す

右の表に示すか如く第六月或は八月に至れは齒を生するか故に乳汁の他倘固形躰を攝取するも妨なしその天然徵候にはあらすや乳汁のみにて格別躰重を增さゝるは第十一月或は十二月にして離乳するも妨なし但し六、七、八月の夏期は避るを良とす否らざれは離乳下利を發するとあり如斯歐洲にては第一年を離乳期と爲すと雖とも本邦の習慣は二年乃至三年或は五年に亘るとあり故に前雇外國人の說に據れは日本に產兒少なしと云ふ之を統計するに一配偶に付本邦は平均三、三歐洲は四、八の子を產する割合なり第一年離乳后歐洲にて牛乳を與ふるは本品の低廉なるに坐するものとす即ち牛乳一升に付歐洲にては我貨幣に換算して僅に金八錢六厘なれとも本邦にては貳拾五錢にして即ち三倍高價なり是れ產母か甘んして二三年間授乳の勞を辭せさる所以ならん愛兒稍や長すれば肉羹汁、鷄卵黃、細挫鮮肉、ネストル氏小兒粉を與ふ本邦にも乳の粉あり其質良しからず、產母か愛兒に授乳する限期を十二ヶ月とすれは(一)身躰衰弱すると少なくして(二)再ひ子を擧るの望多き利益あり授乳中に急性病殊に傳染病(質扶私、虎列剌)に罹るときは授乳を禁すへし月經再ひ通する

ときは授乳せさるを利ありとす(乳質良しからず)况して再ひ懐胎するに於ては乳質不良、乳量不足となりて又流産を促すとあり産母の梅毒、結核、貧血、萎黄病等は授乳を禁すへし殊に先天梅毒兒の授兒ハ産母自らせさるへからすとの法律佛國にあり、分泌せされハ驢馬或ハ山羊乳を最も良とす其他乳母の事柄及人工營養の利害に就きては此に論究せす若し必要あらば他日を期して再ひ開陳するとあるべし。

○明治廿三年一月の演説

宮本　仲君　演説　　佃　與三郎　筆記

今日は御年頭に參りましただけて、爰て皆さんに御目に懸りますのみの事で御坐いますが、只今坪井さんより、色々有益なる御話しがあつて至極私も坪井さんと同感で御坐います。一月の食物や又遊び事抔には大層宜しい事もありませうが、又食し方、遊び方に依つては悪るい事もあるので御坐います。又只今も御話しが有りましたが、昔から、無病で暮さなければならないと云ふは何方でも知つて居る、知つては居るが知らず識らず不養生を致します。醫者で居りながら醫者の不養生など丶云ふ事も御座います。一月健て暮す様に食物にも豆の御馳走が有る、頭の白く成る迄達者で居る様に裏白が有る、腰の曲る迄丈夫て居る様に海老が有つたり、何事に就ても健康で一家の中に病ひが無い様にと祈つて居るので有ります。此事の大切なるは是迄度々御話しも御聞きなさいましたらうし、私も度々申上た積りで御坐いますが。衞生と云ふは一國に取りまして。先つ國を富し、國を強くすると云ふ、大變必要の事柄で一人々々にして言つて見ると、業が榮へて家が富むと云ふ事にあります。御覧なさい私は勘定高い事を申すようですが、小見が生れて來て、丈夫なれバ御母さん

が飲ませ、其足し前に牛乳位いを飲ませるので、御醫者も何にも入らない、併し若し身體が弱ければ、始終醫者を招かなければならず、又御自分で骨を勞るが大變です、一人は御母さん許りでない御祖母さんなり女中あり、一人の小兒の爲めに、三人も四人もかゝつて世話を仕なければならない、其上に看病勞で御母さんが病氣になる、手が少なくなれば人を雇はなければならない、目の前で一人頼むだけの事か違つて來ます。今少し深く勘定して云へば、御母さんは家の仕事に盡されねばならぬ務めがあるに其務めを止めて仕立屋に着物を出すとか（夫れで無くとも仕立屋に御出しになりませうが）又女中を指揮する事が出來ない、夫故女中は段々横着になつて居眠てもすると云ふ樣に總べての仕事が捗りません。ソウなれば是非一人を雇ひ入れねば一家の事が整ふ譯には參りません其人一人を雇へば如何にやと云ふに給料も取りませう、食物も食べませう、小兒には藥を飲ませ藥價を拂はねばならず診察料も拂はねばならず、大變な不經濟です。啻だ御母さんの手許でない、御祖母さんの仕事も、旦那樣の仕事も手が欠けて來るからそうして見ると家中の人が目には見えないが、一人に就て二十錢つゝ仕事が欠けたとして見ると、一軒五人と見積つて、二五の十、一圓の損になる、一ヶ月では三十圓、是れを又日本全國に積りますと大變です頓て十万五千圓許月々に損をして行く譯で御座います。

而して此の損失は何處より償ふかと云へば、日本の人が機も米も作れず、止む事を得ないから西洋の物を仰がなければならない、是れを總べて外國から輸入して來た日には大變の事で、日本が如何に金があつた迚も月々十万圓以上の借金をした日には、大變です仕舞ひには迚も立行かない事になつて、國がつ

ぶれます、然るに又是れを反對に貴女方總べて健康で一人で一日一錢つゝ餘計に御働きなさると、是れも又大いした者で一日三十五万圓で一月にすると一千万圓以上の儲が附いて往く譯に爲ります

今それ戰爭の如きでも兵隊が病氣であつた時には駄目です。硫黃は澤山にあり鉄砲は澤山あつても戰さは出來ない外國人から侮りを受ければ遂に其國を支へる事が出來なくなりますから衛生と云ふは此の上もなき必要な者で御座います。一家の中にしても、人の上にしても直ぐに解る事で則ち如何な學者に爲らうと云つても勉强は丈夫でなければ出來ない始終苦痛か有つて、不愉快に暮しても、夫れでも學問が進みましても、此の學問を働かせる事は出來ません。ツゥすれば學問は何んの役にも立たない生れ付才智の備つた人でも青い顔ばかりして居ては立派の人となる事は出來ませんから諺に申す通り馬鹿でも宜しいから丈夫が肝心だ」と云ふが、如何にも其通りで御座います。

其の樣に衛生が大事だから、衛生の事を諸君が澤山御聞きに成りましても、衛生會は只身の上の事而已云つて居ると思召しては成りませんから、其邊を能く御考へに成て臺所の經濟など度々御話が有つた筈で御座いますから、夫を日々行つて往かなければなりますまい。毎度申ますが、是等の事は總て御存じで入らつしやる樣よ思ひますから、只衛生の必要であると云ふ事丈け申上たのです。

然し衛生の必要許り申す事では詰らんから、極く〳〵單簡よ何か申上げやうと思ひます。一躰加藤さんが此の後とで委しい面白い御話をなさつて下さる譯で御坐いますから私れ只前座丈けを一口申上ます

其處で何か旨い御話を仕樣と思ひますが、お正月ですから骨牌や双六を遣て取込んで居りまして何うも

旨い事を考へ附かなかつた處で今日道々考へて參つた處を一寸皆樣に御屠蘇を差上やうと思ふその考へ附いたのは何であるかと云ふに、御臍で御茶を焚すと云ふ事が有りますから先づお臍の御話を致さうと思ひます。

就中小供のお臍です私は開業醫者だから小供の診察杯を頼まれますが小供は大概生れまして、七日めたりより三十日位迄、何うも臍から起る處の「破傷風」と云ふ病氣になるのが往々あります。昨年以來既に四五人も手掛ました又臍から起る處の丹毒と云ふ者此れも一兩人病たのを見ます。然らば臍から起る破傷風と云のは何う云ふのかと云ふに是れは臍の取り扱ひが悪るい爲です俗に酸漿感と申しまして、一番先に口から痙攣を起します。(癲癇を起す樣に引附るのです)口から何か飲せやうとすると、齒を食ひ縛つて口をツボメルから恰度酸漿を吹く樣な口つきになるので直赤に相成ますから、そこで酸漿感と云のです。昔しは何でも酸漿に關係を有した虫が、腹の中て責めると考へたのです。然し決して此虫が居て責める譯では御座いません。虫にも澤山種類が有ますから、是は虫の勢ではない普通起る處の理由が有ます。其の原因は何であるかと云ふ事は確乎解りませんが、然ながら臍の緒の墜る前若くは墜た當座に起る處の病で手當りの悪るき爲に或は之を不潔に取扱ふ處から、爛れると云ふ事にあります。是は大變悪いです。又大層熱い湯などに入るが誠に是は宜敷ありません。是等の不養生不取扱は兎角日本の習慣であるが、何も宜しくない、其甚しきは私の實見したのを御話しすれば、臍の緒の落る前吾が家で湯を立て丶浴びせる事が出來ない爲に、洗湯に連れて往つて入れた處が、何うも夫が恰度三日目か四日目であつて、夫から躰が悪るくつて私の處に連て參りましたが、

參つた時は則ち生れ子の破傷風で有ました。是は臍の緒の落た後は損み易です、其處に以て來て熱き湯に浴つた爲に起つた病です。湯は勿論日々身躰を清潔に浴びせて遣のは宜しいが、温度が高いのは甚だ宜くない、其温度は大概三十五度から卅七度くらい、もつと高くて三十八度を極度にします、(醫者の使ふのは攝氏の三十六七度位)是からして破傷風を促がすのです申す迄も無いが其の使ひ湯は清潔でなければならんのに、市中の湯は朝から晩迄大人に適する樣に熱してある上に、澤山の人が這入るから不潔になつて居ります。此の湯に浴れる杯は以ての外の事で御座ます。なぜならば健康の人の垢のみではなく、顯微鏡で見れば大變恐ろしい垢が浮いて居ります即ち病氣の垢です、されば其の不潔なる湯が落たての臍の跡に附着して爛れると云ふ樣な事が病を促す原因で御座います。

或る部分に大層破傷風が流行ましたから、其原因は何であるか段々調べた處が、或一人の產婆が取扱かつたる小供が一番多うかつた。其產婆を段々調べて見ると、此產婆は手で以て湯が熱いとか温いとか云ふ加減をしたので、處が其婆さんが三十七度位であらうと思つて遣つたので御座いますが、此產婆は溫度の感覺を失つて居るんで有た、手の指先にて痒いとか熱いとか冷め度いとか色々なる感じを以て居る者で有りまするが、其產婆は熱いと云ふ感覺を大變に間違て居る者であつたから四十度位の熱さを來た三十七度以下位な度と思つて居る處が始終寒暖計を以て居ずに己れの手を以て湯の加減を計りましたから、其產婆の取扱つた子供が一番破傷風が多かつたに依て、其の產婆に之から寒暖計を以てしなければならんと命じた處が自然に破傷風が減じたと云ふ事を或る大家が調べ上げたで御座います。して見れば

湯の熱いのは宜しくないと云ふ事ハ之を以て見ても解つた話で有ります。

（未完）

本會錄事（自明治廿二年九月 至廿三年二月）

○○○○○○○○○○○○○○○○○

○來三月より隔月に本會雜誌を刊行するに議決せり

○十二月例會　十二月七日午後一時より麹町區飯田町四丁目二十一番地共濟會に於て開會す來會者六十餘名なり定時に至り贊成會員木寺安敦君一場の談説あり次に醫學士芳賀榮二郎君「出血の處血」と云ふ題にて動脉圖を示し丁寧に講述せらる次に醫學士榊佊君「おしろいの説」と云ふ題にて各種のおしろいを取集め其良否を試驗せらる右終て散會せしは午后四時なりき

○一日例會　一月四日午后一時より麹町區飯田町共濟會に於て本年の初會を開く此くは寒風の烈しきに關はらす來會者大凡そ百餘名なり最初に坪井次郎君（一月衛生）の口演あり次に宮本仲君加藤照麿君の演説談話あり右終て一同に茶菓を饗し福引贈物其他種々の遊戯等ありて十分の歡を盡して散會したるは午后四時なりき

○二月例會　二月一日午后一時より麹町區飯田町五丁目共濟會に於て例會を開く來會六十餘名定時に至り河本重二郎君子守衛生と云ふ題にて各國の子守法を述へられ次に菽原三圭君（完全無缺なる我邦の婦人よ流行風俗の爲に傷はるゝと勿れ）の口演あり右終て午后四時閉會す

○昨年十二月以降本會に向て金品の御寄送を辱ふせし方々を列記し玆に聊か謝意を表す

金一圓　菽原そう子君
金一圓　原田とき子君
金一圓　佐々木芳子君
齒の養生法四百册　高山紀齋君

（自明治廿二年九月 至明治廿三年二月）半年度會計表

收入之部

會費	一二九円五〇四
雜誌料	一五〇〇
修身會員出金	二〇〇〇〇
寄附金	三〇〇〇
前半年度殘金	二六一三
合計	一五六六一七

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

支出之部

項目	円	厘
事務員給料	三〇	〇〇〇
會場借料	八	〇〇〇
筆記料	一二	〇〇〇
事務員手當	四	五〇〇
諸印刷費	三八	二九三
郵券並ニ端書代（但シ通知並ニ會雜誌郵稅）	一六	五〇〇
廣告料	三	六三七
小說雇賃並ニ手當	四	一〇〇
筆紙墨料	二	四五〇
雜用郵稅	二	四八〇
雜費	六	九六〇
十一月親睦會不足金	一三	五九〇
合計	一五四	五一〇

項目	円	厘
殘　收支差引金	一二	一〇七
三井銀行預ヶ金勘定高金	八四	〇〇四
總利	二	一〇八
合計	八六	一一二

右確實也　會計係

明治廿三年二月廿八日現在會員數調

總計會員三百七十八人

内譯

終身會員　十一人

通常會員　二百三十二人

地方會員　六十八人

贊成會員　三十一人

千葉支會々員　四十四人

（自明治廿二年十二月至明治廿三年二月）入會者姓名

○終身會員

今井政乃　山形縣西村山郡新宿村

○通常會員

中原キヱ子　本鄕區東竹町廿二番地

遠山ヤス子　仝　區春木町一丁目六番地

高原ミチ子　麹町區三番町五十四番地

矢野直子　赤坂區三丁目二番地

兵頭アサヂ子　神田區駿河臺西紅梅町八番地

堀　俊子　本鄕區第一醫院內

山名ヒサ子　仝上

山田レイ子　仝上

駒井マサ子　仝上

入澤郡子　麹町區上六番町廿六番地

江馬増子　本鄕區龍岡町十四番地

犬養加津　下谷區東黒門町九番地

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

伴　夫人　牛込區下宮比町四番地
保利幸子　麹町區上二番町九番地
別役ユカ　仝　區富士見町十六番地
大森久米子　下谷區御徒士町一丁目四番地
笠原鉎子　深川區龜嶋町六番地
馬嶋園子　神田區南神保町十七番地
間嶋由伎子　仝區小川町六番地
酒井カヨ子　本郷區本郷六丁目三番地
長町耕平氏夫人　山梨縣甲府公園地
神代喜美子　麹町區上二番町
久保田八重子　小石川區金富町卅五番地
木村チヨ子　日本橋區四丁目七番地
高田輝子　麹町區中六番町廿九番地
邉井要子　山梨縣甲府泉町三丁目三番地
近藤直子　新潟縣新潟市舊營所內
藤田モン子　仝　縣上大川通十番町
長谷川ハマ子　仝　所
瀧野サエ子　麹町區麹町八丁目五番地
三輪松琴亭　麹町區麹町五丁目尾張屋増二郎方
小畠筆子　芝區田村町五番地
相澤ソノ子　新潟縣中蒲原郡白根村

岡田靜子
大内フキ子　麻布區北日ヶ窪町
大内ユキ子　仝　所

○賛成會員

松原覺四郎　牛込區北町錦春社
萩原三圭　麹町區上三番町

退會者

高橋德子　川口仙子　西尾友子
古矢カマ子　藤原キン　大須賀ツル
玉置よし　藤本光子　田口みよ子
勝畑よし　依田かつ子　柴田ひさ子
益澤よね子　塚原かつ子　矢野やそ子
村松しお子

本年十二月以降本會へ寄送せられたる雜誌左の如し

普通衛生會雜誌　三冊　普通衛生雜誌社
日州衛生會報告　一冊　日州衛生會
埼玉衛生會雜誌自五十九號至六十一號　三冊　埼玉衛生支會
青森縣衛生年報　三冊　青森縣衛生課
小兒科雜誌　二號　一冊　錦春社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

産科婦人科研究會雜誌　二冊
三重衛生會雜誌　二冊
愛媛衛生會雜誌　一冊
護國の楯　三冊
大日本婦人敎育雜誌　三冊

産科婦人科研究會
三重衛生支會
愛媛衛生支會
北會禁酒會
大日本婦人敎育會

會員諸君に望む

本會設立以來次第に盛運に赴き今日にては無慮三百名の會員と一支會の設立を見るに至りしも唯毎月一回の講談會と一年四冊の雜誌にては到底實際の効益を社會に普及するに足らず勿論雜誌を增刊して隔月或は毎月の發行とし且つ衣食住育兒看病等に就て實際の事業を興し廣く公衆の幸福平和を增進せんとこそ本會の素志ありとは云へ會運猶微弱にして其機に至らず常に甚だ遺憾とする處なり、會員諸君は固より衞生の必要を知り給はん從つて婦人衞生會の事業の効益あることを認め其實行と普及とを希望せらるゝならん請ふ自今一層奮勵して各々出來得る丈け同志を勸誘し衆力を結合せられよさらば次第に勢運盛に基礎堅まり本會の事業を擴張する又難きにあらざるべし、社會の事總べて單身孤力を以て成就するものにあらず殊に本會は一個人の私有にあらずして會員諸君の衆合躰あり故に本會の事業は悉く會員諸君の熱心に依賴せざるべからざるなり

私立 大日本婦人衞生會

廣告

諸先生方よりの原稿澤山有之候得共何分紙數に限りあると故一時に掲載するを得ず順次に掲載致候間左樣御承知被下度候

會員諸君にして御轉居の際何等の御報知なき方多く雜誌配達其他種々差支へ甚不都合に候間御移動の際に必ず御報知被下度候

會費御不納の方は至急事務所まで御送附被下度爲替は總べて芝口郵便局宛に願上候

私立大日本婦人衞生會事務所
東京麹町區富士見町二丁目一番地女學雜誌社內

本會雜誌編纂委員　荻野ぎん子　鈴木まさ子

發行所　東京麹町區富士見町二丁目一番地　私立大日本婦人衞生會

編輯兼發行人　東京麹町區富士見町二丁目一番地　巖本善治

印刷人　東京芝區源助町拾壹番地寄留　森田豐

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生會

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN